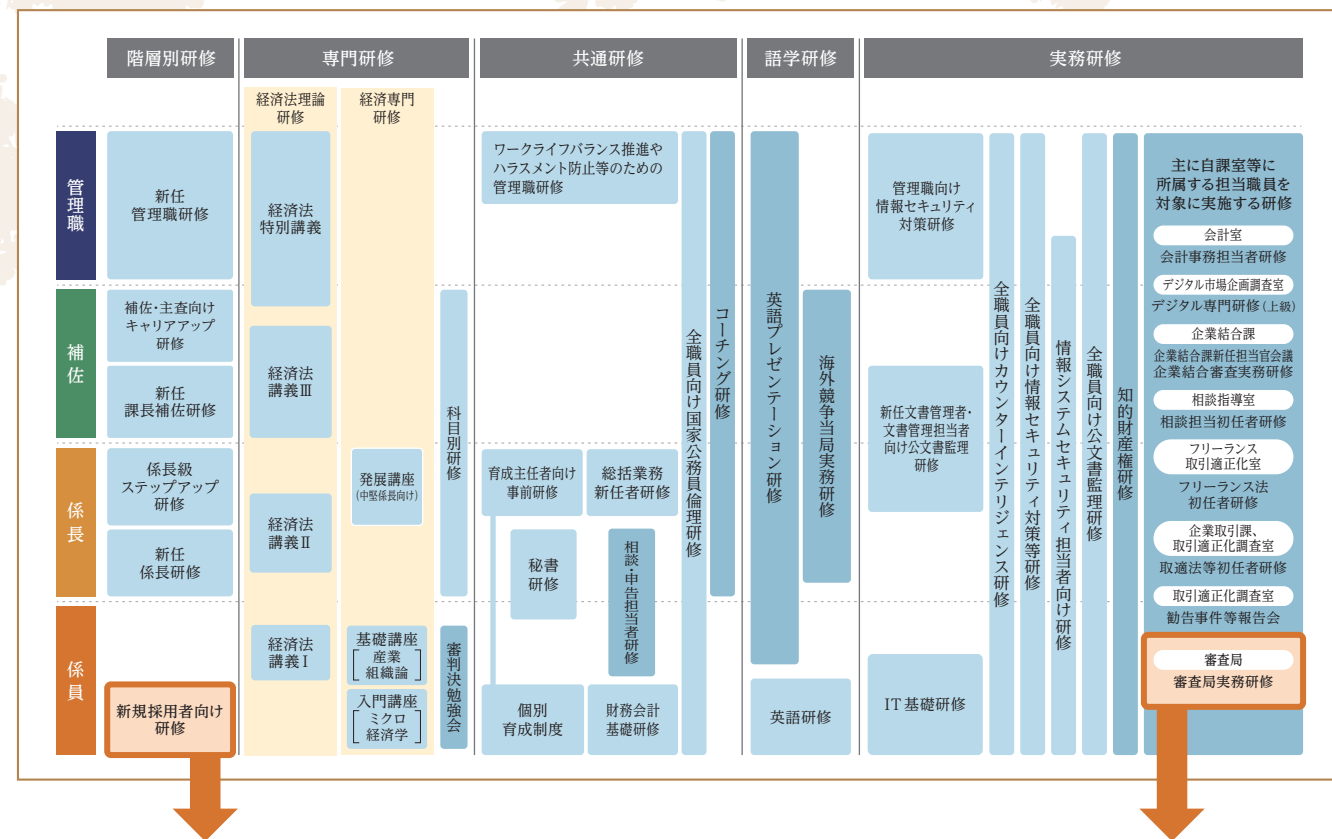


令和7年度研修体系図



新規採用者研修について

公取委では、採用後約1か月の時間を掛けて、新規採用者研修を実施しています。新規採用者研修では、社会人としてのマナーから国家公務員・公取委職員としての心構え、必要な知識及び技能について学ぶことができます。中でも、公取委の仕事で欠かすことのできない独占禁止法に関する講義には、合計20時間を超える時間を掛けていて、学生時代に同法に触れたことがない人であっても同法の基礎的な知識を身に付けることができる内容となっています。公取委が行う研修で、1か月の長期間、同じメンバーが集まって受講する研修はほかになく、同期同士のきずなを深める絶好の機会にもなっています。



実務研修について 審査局実務研修 (初任者基礎研修)

公取委では、審査局に配属された職員に対して、階層別、テーマ別研修を実施しています。例えば、審査局へ初めて配属された職員に対しては、初任者基礎研修を実施しています。この研修は、審査局の初任者が業務を適正に行うために必要となる基礎的な知識や技能を習得できる内容となっており、例えば、独占禁止法に違反している疑いがある会社に対して行う立入検査に関する講義・実践演習や、供述聴取(事情聴取)に関する講義や演習等を合計15時間近く掛けて実施しています。また、近年のIT化の進展に伴い重要性が増している電子証拠(メールやスマートフォンのデータ等)を立入検査時に適正かつ的確に収集できるよう、電子証拠の収集に関する講義に加えて、特殊なソフトウェアを用いた実習を行っています。



吉田 大輝
Yoshida Hiroki

官房参事官(デジタル担当)
デジタル調査官(総括担当)
[令和元年4月入局]

丸田 蒼
Maruta So

官房参事官(デジタル担当)
係員
[令和7年4月入局]

丸田 着任当時、デジタル参事官付は、国会対応で多忙を極めており、大きな不安を抱いたことを鮮明に記憶しています。

そのような状況下で、吉田さんが気さくに声をかけてくださり、課室の皆さんが温かく迎え入れてくださったことが、大変嬉しく感じられました。

吉田 彼が着任した当時、部署はスマホソフトウェア競争促進法の施行に向けた準備や生成AI市場に関する実態調査等、多くの重要な業務を抱えていて、緊迫した雰囲気と業務の刺激に彼が圧倒されている様子がすぐに分かりました。そこで、タイミングを見計らい、「今はバタバタしているけど、焦らなくて大丈夫。分からないことは些細なことでもいつでも聞いてね」と声をかけました。彼は「ありがとうございます」とホッとした笑顔を見せてくれ、安心してもらえたと感じました。

また、課室の皆様が彼を温かく迎え入れ、指導を分担してくれたことが、私にとっても何よりの援助でした。

丸田 根拠の明確でない資料を自己判断で作成した際、吉田さんから「自分が作成したものに対しては、過去例を参考に、必ず根拠を持って上司に上げる」という重要なアドバイスを頂きました。

公務員は、特に資料を作成する際に、その基盤となる根拠や論拠を明確にすることが求められるので、今も業務を遂行する上で心掛けています。

吉田 彼を指導する中で、彼は、素直にフィードバックを受け止め、即座に行動に移すことができるという、非常に重要な能力を持っていると気付きました。このインプット・アウトプットの

スピード感こそが、彼が今後大きく成長する鍵だと確信しています。

また、指導する際、「自分で考える機会を奪わないこと」と、「目的を明確に伝えること」の2点を特に心掛けています。最初は丁寧に手順を教えますが、慣れてきたら「あなたならこの業務をどう進めますか?」と問いかけ、主体性を促します。そして、「なぜこの資料には正確な根拠が必要なのか」という仕事の背景や、省庁間の調整の難しさを伝え、彼が本質を理解して取り組めるように導いています。

丸田 私が最も成長したと実感していることは、発注趣旨を深く掘り下げて理解し、自立的に資料作成ができるようになってきた点です。着任当初は、吉田さんに一から丁寧に教えてもらいながら取り組んでいましたが、今では自ら発注を拾い上げ、根拠を明確にした上で資料を作成できるようになりました。

吉田 指導するに当たって、難しいと感じるのは、多忙な中で、彼が自ら「失敗」を経験し、そこから学ぶための時間を確保することです。全てを先回りして教えず、自力で成長の機会を奪うため、そのバランス調整が常に課題です。一方、手応えを感じたのは、彼が主体的に考え、与えられた業務以上の価値を生み出そうとしている証であり、大きな喜びを感じました。

丸田 これまでで最も失敗したこととして、他省庁からの問い合わせ対応で、上司へ内容を正確に伝えられなかったことがあります。

現在は、正確な書き取りと、不明点を恐れず質問する姿勢を徹底しています。

吉田 失敗に対し、「なぜ情報の伝達がうまくいかなかったのか」を彼と一緒に振り返りました。アドバイスしたのは、「曖昧な理解で終わりにしないこと」です。具体的には、「不明点を恐れず質問する姿勢を徹底する」ことに加え、情報を受ける際は「ディクテーションのように正確に書き取る」こと、そして「その情報の背景知識や他組織への影響まで深掘りする」ことの重要性を伝えました。

丸田 これからも沢山の業務に挑戦する中で頂くフィードバックを、私自身の成長のための最も貴重な財産として捉え、同じ間違いを繰り返さないよう心掛けていきたいと思っています。課室の皆様を持つ専門的な知見と、業務で得られる実践的な経験を迅速に吸収し、いち早くこの組織の一端を担える人材として成長していきたいです。

吉田 彼にアドバイスを行う中で、「指導はアウトプットの質を高める最高のインプットである」ということに改めて気付きました。業務の原理原則や重要性を説明する過程で、「なぜこの作業が必要なのか」「この資料の論拠はどこにあるのか」と、私自身の業務に対する根本的な理解や知識の体系化が進みました。また、若手の視点や疑問に触れることで、組織全体として業務を改善するヒントを得ることもでき、自身のマネジメント能力の向上につながっています。

今後、彼には「自立した上で、周りを巻き込む力」を身につけてほしいです。彼は今、いろんな方から頂いたフィードバックを真摯に受け止め、着実に知識と経験を吸収しています。さらに成長するためには、彼自身の持つ「専門的な知見」を、今度は周囲のメンバーや関係省庁に主体的に発信し、調整する役割を担っていくことが重要になります。遠慮せずに様々な業務に挑戦し、デジタル社会の未来を切り開く活躍を期待しています。

甕 実紗

Motai Misa

経済取引局 企画室係員
令和7年4月入局

標準的な1日

繁忙期の1日

私が所属している経済取引局総務課企画室は、「独占禁止政策に関する基本的事項の中長期的観点に立った企画及び立案に関する事務」を担っており、私は、総括係員として、主に、他課室からの照会への対応や、資料作成、室内での独占禁止政策の検討に係る資料や情報の収集等を行っています。また、有識者へのヒアリングに随行することもあり、独占禁止法について日々勉強しながら業務に取り組んでいます。

退庁時間が20時を過ぎる日もありますが、定時に退庁できる日が多いです。フレックスタイム制やテレワーク制度の活用、休暇の取得もしやすく、とても働きやすい職場だと感じています。

合田 大希

Goda Taiki

審査局 第四審査上席係員
令和7年4月入局

標準的な1日

繁忙期の1日

私が所属している審査局第四審査上席は、独占禁止法違反被疑事件の審査業務を担っています。審査の方針によって、違反の疑いのある企業への立入検査、証拠の収集・精査、事件関係者への事情聴取等を行っています。審査の結果、行政処分を命ずることと判断された場合、行政処分を滞りなく行うための必要な手続のサポートも欠かせません。事件開始前後は、立入検査の準備や事件関係書類の読み込み、整理等で忙しく、退庁時間が21、22時となってしまうときもあります。その他の日はほとんど、定時に退庁できています。年次休暇やフレックスタイム制、テレワーク制度等も活用しやすい環境だと思います。



メリハリをつけて生活することを意識しており、休日はお出かけをしてリフレッシュしています。平日の業務後に、SNSで美味しそうな食べ物を探して、休日に食べに行くことが多いです。休暇も取得しやすいので、大体1、2か月に1回は、旅行をしています。夏休みには9連休を取得し、地元へ帰省したり、旅行したりと充実した時間を過ごすことができました。



社会人になってから、美味しいご飯を食べることが趣味になりました。仕事のお昼時間には、他省庁へランチを食べに行ったり、休日でも美味しいご飯を求め、他県へ出掛けたりすることがあります。雨等で外に出たくないときは、家で映画を見ているか、ゲームをしています。

